



緻密で繊細な作業も多くチームワークで作業を進行

高い技術と培ったノウハウを活かし 溶接・切削加工が難しい特殊金属を手がける

技術を高め合う働きやすい職場環境で
チームワークの良さを「ものづくり」に投影



女性技術者も3名在籍



高度な技術を駆使し、
チタンを加工して作られた製品

技術と知識を高め合い、 特殊金属の溶接・加工を可能に

1945年、旭化成の終戦後の復興工事に携わるため、配管職人だった創業者（現社長の祖父）が、数人のグループを作り起業したのが森山工業の始まりでした。その後、前社長（現社長の父）が大学生時代専攻していた英文学を学ぶ中、海外の金属にまつわる文献から「チタン」に辿り着いたのがきっかけで、1962年に初めてチタン溶接を手がけることに。当時は、切削や溶接が難しいといわれる金属で、国内でもチタンの加工を行っていない企業はほばない中、外国から取り寄せて知識を深め、技術を磨き続けてきました。

今では、チタンだけでなくニッケル、タンタル、ジルコニウム、スーパーステンレスなどの特殊金属の溶接や切削加工技術を得意とし、全国からその高い技術力が認められています。

現在は主要取引先である旭化成や大手化学メーカーのプラント機器製作を主力業務とし、チタンの塩水に強く錆びにくいという特性を活用した電解槽の製作などを行なっています。世界トップのシェアを誇る旭化成の電解槽を通し、森山工業で作られている製品は世界各国の化学工場で使用されているのです。他に

も、全国各地から難しい特殊金属を使った製品製作の依頼が舞い込んでいます。

社員のほとんどがチタンも扱える溶接技術者（31名）で、女性技術者、海外からの技能実習生も在籍しています。先輩や後輩、性別や国籍も問わず、分け隔てない和やかな雰囲気の中で、惜しみなく技術を教え合うことで、新人社員も好奇心を持って学び、世界に通用する「技術の向上」を徹底的に追求しています。また、一人ひとりが持っている技で互いに支え合う強い信頼とチームワークを、より良い製品づくりに投影しています。これらが、国内外から高い評価を受ける、森山工業の「技術力の高さ」の原点です。

仕事にまつわることはもちろん、働く環境について、社員からのさまざまな意見に社長自ら真摯に向き合い改善するなど、働きやすい職場の雰囲気づくりに余念がありません。「地元の若い人が働きがいを感じられるよう人材育成にも力を入れていきたいですね。また、コロナ禍でストップしていた「海外での工場展開」にも再びチャレンジしたいと考えています。弊社の高い技術を海外にもっと広めたいです」と、森山和真社長は、笑顔で話します。

ココがスゴイ！ POINT

2 point アブレシブ ジェットカッター (ウォータージェットカッター)

超高压の水と研磨剤の力により、金属のみならずゴムやプラスチックなどあらゆる素材の高精度切断が可能です。



1 point チタン溶接技術

溶接技術者31名中28名（女性3名）がチタン溶接技術者（JIS Z3805）です。厚さ0.1～100mmまでの難易度の高い特殊金属の溶接が可能です。

3 point 特殊金属の 切削技術

難加工金属のチタンやニッケル等の旋盤切削による加工技術を、長年蓄積したノウハウとIT技術を融合させ自動化を実現しました。ITを利用した設備の自動化を積極的に推進し、高精度で効率性の高い生産体制を築いています。



工場でチタン製プラント機器を製作中



技術者同士で丁寧に作業を進めていく



自動化を可能とする最新設備

「年齢、性別、国籍にとらわれず、 互いの強みを生かすものづくり」

「実直に徹する、全員で豊かになる」を基本理念として、実直に良い製品をお客様に提供することで、社員と家族、地域社会など関係する全てのステークホルダーが物心共に豊かになれる会社を目指しています。また、年齢、性別、国籍などにとらわれず互いの強みを活かした、働きやすく生産性の高い職場を目指しています。

代表取締役

森山 和真

Moriyama Kazuma

1971年生まれ [延岡市出身]

趣味：読書、海外旅行
座右の銘：curiosity (好奇心)



全員が仲良く、明るく仕事ができる社風です。難易度の高い製品に丸となって取り組むチームワークも弊社の強みです。

製造グループ工場次長

